

## 古屋の入の供養碑

細布の吉ヶ作地内の道ばたの土手上に南無阿弥陀仏の碑が建っております。部落の人達は俗に供養様と呼んでいるか、この碑については次のような物語が残っています。

昔この部落にNという人が住んでいました。とても信心深い人だったそうですが、負けずぎらいな性格で何をやっても勝つことばかり考えておりました。ある年、部落で千両取りの無尽講を始めることになりました。Nさんも勿論これに参加しました。それからNさんは日も夜も神仏に願をかけてこの無尽で千両取りが出来るように祈りつづけました。

一年後その無尽に当選してNさんは日頃の願いの通り千両を取るようになりました。Nさんの喜びようは全く並大ていではありませんでした。しかし間もなくNさんは眼病にかかり、いくら医者の治療をうけてもその効果がなく、遂に両眼とも全く見えなくなりました。そして、無尽で取った千両も遂に使い果してしまいました。全くのめくらになったNさんは、何の仕事も出来なくなり、先祖伝来から持ち続けた田畑も山林も他人に売渡して、長年住みなれた屋敷を他人にまかせて、親戚の人をたよってほかの村に移って行きました。

Nさんが村を去るとき、先祖の供養をして心残りなくこの地に別れるために、この供養碑を立てたのが、そのまま残っているのです。碑面には、南無阿弥陀仏と書いてあり、明和九年七月仁右衛門建立と彫られてあります。又、仁右衛門の住んでいた所は高い屋敷跡で、今では畑になっています。この物語りは、今から